

いのちの言の葉

「事故者を救え」

富山市立船嶺小学校 5・6 学年児童

富山県教育委員会 平成20年度いのちの教育支援事業 平成20年10月30日実施

「救助の喜びと悲しみ」

人命救助という山岳警備隊の仕事の中で、人の生死を41年間見続けてきた梶田先生に、いのち観やいのちのかけがえのなさについて、話をお聞きしました。

梶田 正先生のプロフィール

1947年大山町生まれ

警察学校を卒業後、山岳警備隊員に任命され、上市警察署、大沢野警察署、警察本部で勤務する。

2006年より山岳警備隊長を務めるなど41年間富山県警察山岳警備隊にかかわる。

警備隊の人たちは、遭難者のいのちを助けなければいけないし、警備隊の人たちも危ないので大変な仕事だなと思いました。「落としたいのちは二度と拾えない」と言っておられたので、そんないのちを預かる警備隊の人はすごいと思いました。

梶田先生の話聞いて、山岳警備隊の仕事はとて危険なのに、遭難者を守ろうとしてすごいと思いました。特に冬は、吹雪や雪崩に遭うこともあると聞いて、とても頑張っているんだなと思いました。ぼくは、いのちをとて大切にしようと思いました。

【内容】

(1) 道徳資料「山がくけいび隊」を読んで話し合う。

(2) いのちの先生の話

ザイルとピッケル(いのちを守る道具)

登山の危険

救助活動の状況

- ・ 迅速な活動
- ・ 危険な現場
- ・ 救助活動の苦しみ

救助の喜びと悲しみ

遭難者が助かったときの喜びや搬送の途中で遭難者が亡くなったときの悲しみ。亡くなった遭難者をその家族に渡すときの状況や思い。嬉しかったこと辛かったこと

心の底から感謝の気持ちを言われたとき。救助活動や訓練中に仲間が事故で死んだとき。

いのちの尊さ

いのちはかけがえのないものであり、落とすと拾うことができない。いのちは自分だけのものではない。すべてのいのちを大切にしたい。

梶田先生の話聞いて、山岳警備隊は死と隣り合わせの仕事だけど、助けた後の感謝の気持ちに支えられて、たくさんのいのちを助けたのだと思いました。

梶田先生は41年間も人のいのちを守っていてとても尊敬します。先祖は何億人以上いるのに、自殺などでそこでストップさせる人もいます。ぼくは、危険なことには気をつけて、自殺は絶対にしないようにします。